

新旧事務次官が交代あいさつ

第16代次官に増子宏氏「全身全霊で職務にあたる」

第16代文部科学事務次官に増子宏氏（61）が7月15日付で就任した。この日の夕方、職員に向けた新旧事務次官による交代のあいさつがあり、増子新事務次官は「今、国際情勢が混乱しており、政権与党も不安定な状態。その中でも、文部科学行政を着実に進めていくことが求められている。全身全霊で職務に



意気込みを語る増子新事務次官

あたると意気込みを述べた。

既報のとおり、政府は7月8日の閣議で、藤原事務次官の後任に増子文部科学審議官を起用する人事を決めた。増子氏は早稲田大学大学院理工学研究科を修了後、1988年（昭和63年）に旧科学技術庁へ。これまで、地震・防災研究課長、原子力課長、官房会計課長、官房長を歴任したほか、旧科技庁系としては初めて高等教育局長を経験している。

一方、退官する藤原章夫氏は、1987年（昭和62年）4月に旧文部省に入省。総合教育政策局長や初等中等教育局長などの要職を歴任し、2023年8月に第15代文部科学事務次官に就任、約2年にわたって重責を担った。藤原前次官は、約38年間の公務員人生を振り返った上で、「（給特法等改正について）公務員人生の最後で、皆さんとともに成し遂げることができたことは私にとって大変大きな幸せであり、記憶に残る仕事になった」と述べ、職員に謝意を示した。

新旧事務次官の挨拶概要は次のとおり。